

## アゼルバイジャン山岳地帯のユダヤ人

人口:30,000 人

■風景が絵になるクバという町では、木製バルコニーのある、さまざまな色で塗られた石造りの家々が、曲がりくねった狭い道に立ち並ぶ。子供たちは路上で遊んでいる。男性は喫茶店で、何時間も世間話に花を咲かせる。町中を蛇行した川が流れ、女性たちはその中で洗濯をする。イスラム教徒とユダヤ人は、それぞれ川の両側に住み分けているが、お互いに仲良く暮らしているため、反ユダヤ主義はほとんど表れない。

■このようなカフカス山脈のユダヤ人は、何世紀にもわたってアゼルバイジャンに住んでいる。彼らは、祖先が2,500年前にネブカデネザル王によってバビロン捕囚となり、イスラエルからこの地に移住してきたと信じている。また、彼らは2,200年前にペルシャから来たという少し異なる言い伝えもある。彼らの第一言語はアゼリー語だが、固有の言語として、ペルシャ語とヘブライ語とアゼリー語から成る、ユデオ・タットという方言を話す人も多い。

■こうした山岳地帯のユダヤ人は肌が褐色で、瞳と髪も黒い。彼らはもてなしが得意であり、家に特別なゲスト・ルームを設ける家族も少なくない。家族は大きく子だくさんで、2世代も3世代も一緒に住むことが多い。少し年をとった既婚の息子は家から出るが、まだ若い既婚の息子は両親の家にとどまり、若い家族を育てる。


■結婚式は宗教儀式を含めたもので、多くの客が招かれる。女性は金のジュエリー、例えばダビデの星の刻まれた金牌などを身に着ける。彼らは自分のシナゴグをもっており、伝統的なユダヤの祭日を守っているのである。山脈地帯のユダヤ人はこのほかに、悪霊やお守りの力も信仰している。まだ小さな部落に住んでいるユダヤ人はおよそ5千人ほどいるが、現在は大半のユダヤ人が、都市であるバクー（首都、ユダヤ人2万人）とクバ（5千人）に住んでいる。ほかにも約5千人のヨーロッパ系ユダヤ人がバクーに住んでいるが、これは別の文化的集団と見なされている。

■電力は長期間にわたり中断されることがよくある。停電になると水道も止まる。旧ソ連の崩壊、そしてアルメニアとの紛争によって、こうした公共設備や交通機関の信頼性が落ちてきた。冬は寒く、豪雪のときもある。ここ数十年、4万人もの山岳地帯のユダヤ人、つまり全人口の半分以上が、イスラエルに移住したのである。困難な状況にもかかわらず、近年、国を離れたユダヤ人はほとんどいない。

山岳地帯のユダヤ人の多くは商店をもち、あるいは実業家である。ロシアと中国との貿易により、莫大な利益にあずかってきた人たちもいる。

■長い歴史の中でカフカス山脈のユダヤ人は、ここが辺地であるおかげで、比較的外の世界情勢に煩わされることはなかった。ソビエト政府はすべての人に宗教を捨てさせようとしたが、彼らはかまわず自分の伝統を守り続けた。しかし、彼らの多くの文化施設と幾つかのシナゴグは、閉鎖に追い込まれてしまった。多くのラビたちが流刑に処せられ、殺された人もいる。

■共産主義の時代が過ぎて、イスラム国家が設立された今日では、隣国イランからのイスラム原理主義の影響を懸念する人たちもいる。しかしこうした中でも、山岳地帯のユダヤ人の生活は、外の世界からほとんど干渉なく営まれている。

 祈りの課題

☆主が、彼らの宗教的・霊的な盲目の覆いを取り除いてくださるように。

☆特に若い世代に著しく見られる、共産主義がもたらした「後遺症」に立ち向かって。

☆反ユダヤ主義をあおり、ユダヤ人の生活に困難を増し加えるようなイスラム国家主義とイスラム原理主義の台頭を、主が阻止してくださるように。

☆主が彼らの救いのために、とりなしの祈り手と福音を届ける働き人を起こしてくださるように。

☆彼らが自分のメシアを知ることができ、そして全世界の祝福となり、諸国の光になるという、彼らの定めと使命を引き受けることができるように。

☆彼らが、彼らの歴史の一部ともなってしまった恐怖の霊と拒否の霊、そして迫害の霊から解放されるように。迷信や、魔除けの使用、悪霊に対する恐怖などに立ち向かって。主イエスが彼らの解放を願っておられるからである。

☆医療関係のミッション・チームが入国できるように。旧ソ連諸国の中で、アゼルバイジャンの医療設備が最も良くないという。

